

平成22年8月31日(火) 及び 9月9日(木)

京都大学森林科学科学生ほかパイロットフォレストで実習

8月31日(火)、京都大学農学部森林科学科3回生等19名がパイロットフォレスト(以下「PF」と表記)を訪れました。同大学では毎年森林科学科3回生を対象に、同大標茶・白糖研究林において、北方地域の独特な森林・林業・環境の理解を目的とした実習を行っています。この日は天候にも恵まれ、午後の2時間半ほどを利用して、PFのカラマツ林と雷別地区自然再生事業地を見てもらいました。

最初に望楼の下でPFの造成の歴史や現況について簡単に説明。望楼では、見渡す限りのカラマツ林に感嘆の声が上がっていました。続いて、造成当時活躍した大型機械を見学。学生たちは当時使用したチェーンソーを実際に手に取って、その重さに驚いていました。その後、雷別国有林に移動して自然再生事業の現状について見学。学生からは、PFでは殺鼠剤散布の現状などについて、雷別国有林では森林再生の進め方などについての質問がありました。



PFについて説明



雷別地区自然再生事業について説明

9月9日(木)には、京都大学及び北海道大学の学生合わせて19名がPFを訪れました。京都大学北海道研究林では、森里海連環学として京都大学及び北海道大学の学生を受け入れ、上流の森林と厚岸湖・厚岸湾、これらをつなぐ別寒辺牛川を対象地として、森林植生、水生生物、土壌・堆積物、水質などに関する実習を行っています。今回はその一環として両校の学生がPFを訪れたものです。最初に望楼の下でPFの造成の歴史や現況について簡単に説明。望楼の上で学生達はPFの広がりを見渡し、別寒辺牛川流域の重要な水源かん養林であるPFの位置を確認していました。



望楼から東に広がるカラマツ林